

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770200192		
法人名	特定非営利活動法人菜の花		
事業所名	グループホーム菜の花・七尾		
所在地	七尾市矢田町参号184番2		
自己評価作成日	令和 5年 2月 20日	評価結果市町村受理日	令和5年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和5年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 本年度、主に夜勤を担当する常勤職員を1人雇い入れ、日勤職員に余裕が生まれた。元々、七尾の職員はチームワークが良かったが、一段と磨きがかかり、GH内の雰囲気が大変明るくなった。日勤を中心とする常勤職員2名は頑張っているが、今一步の努力が必要。</p> <p>② 昨年度、悲しい程の利用者入退居が続いた。本年度は1名のみで、バタバタしない分、ゆっくりと個別ケアに取り組んだ。</p> <p>③ 入居者さんに豊かな食事を提供しようとする職員の心意気が素晴らしく、昨年同様、入居者さんが喜ぶ面白い料理をたくさん作った。</p> <p>★①②③は代表者が記入した。(平均年齢 86.9 歳 / 要介護度 2.7)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ご近所さんからとれた野菜をいただいたり、食材や日用品の買い物に近くのお店に出かけている。最近の利用者の少ない時間帯を選んで、少しずつ利用者と一緒に掛けることも増えてきている。今年度は田鶴浜高校の実習生を受け入れて、利用者と一緒に洗濯物たたみやお茶の時間を一緒に楽しむことができた。地域の祭りへの参加も検討し始めている。調理や食事の準備・後片付けは、できることを手伝ってもらっており、野菜を切ってくれる方もいる。食事は、四角のテーブルに4人座り食べている。その時に職員も一緒に食事をしている。この他、月に2回行事食や誕生会などがあり、少しだけ豪華な食事を楽しんでいる。また、週1回程度、水ようかん、茶巾しぼり、蒸りんごなど手作りおやつで楽しんでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小規模施設が得意とする濃やかな個別ケアの実践に努めていて、「うちのばあちゃんだったら、どうする？」を合言葉に、管理者・浅井が中心となり、全職員が心一つにして努力した。	パンフレットには「年老いて、病んでも、街なかで、普段通り暮らしませんか！」と理念が記載されている。「うちのばあちゃんやったらどうする」を行動指針としてケアしている。パンフレットの説明が理念の説明そのものとなっている。管理者は週頭の朝礼時には理念について職員に話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年も又、地域に出掛けることを願っていたが、コロナ禍の為に、地域とのお付き合いの機会は、殆どなかった。地域にある神社にお参りに出掛けたり、道端のゴミや缶拾い等は行った。	ご近所さんからとれた野菜をいただいたり、食材や日用品の買い物に近くのお店に出かけている。最近の利用客の少ない時間帯を選んで、少しずつ利用者と一緒に出掛けることも増えてきている。今年度は田鶴浜高校の実習生を受け入れて、利用者と一緒に洗濯物たみやお茶の時間を一緒に楽しむことができた。地域の祭りへの参加も検討し始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外出時に会った地域の方々と、挨拶や会話を繰り返したりしたが、積極的な地域貢献と言える程のものではない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回議題を決めて真摯に取り組んだ。議事録に替えた物が1回あり、コロナの感染拡大時期を避けて、実施した。運推には毎回、町会長が出席くださり、町会に守られたグループホームだと強く感じる一面がある。	感染拡大の影響で1回だけ書面による開催となったが、あとは対面で開催している。市役所、地域包括、町会長、家族、消防等が参加して茶の間で開催している。会議では食の工夫、水害時、火災避難訓練、住環境整備、コロナ感染対策、有事にどう備えるか、菜の花経営状況について等について報告し、話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH便りを七尾市担当課や市包括支援センターに持参し、当GHの近況をお知らせしている。	七尾市との連携は待機者情報の報告や、利用者の介護保険更新手続き等事務的なことや、何か不明なことがあればその都度尋ねたり、グループホーム便りが出来た時には届けている。七尾市の介護保険事業者連絡会のグループホーム部会には今年度はズームで参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に全職員に身体的拘束防止マニュアルを回覧し、幹部職員は3ヶ月に1回、身体的拘束等適正化委員会で拘束の是非を話し合い、身体的拘束をしなくてよいケアへの努力を重ねている。	身体拘束のテキストがありそれが指針にもなっている。テキストに基づいて研修(8月、2月)して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束等適正化検討委員会と虐待防止に関する委員会も併せて定期的に開催している。建物の施錠は夜勤帯に、防犯上の観点で実施している。転倒防止のために家族の同意をもらって、センサーマットを使用している方もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員は、虐待がいけないことを正しく理解していて、浜言葉の為に強い口調に聞こえる職員もいる。コロナ感染予防で職員はマスクを着用することもあり、大きな声があたかも虐待のように聞こえないか？十分に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、両制度の利用者はいない。職員はこのような制度があることを、単語としては理解しているが、内容については知らない。利用者に必要があれば、両制度利用に繋がる支援を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、当GHの料金体系・運営方針・介護への取り組み等の十分な説明を行い、必要な時は、請求書に「お知らせ」を同封したり、GH便りに記載したり等の努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年の運推会議で、代表者自ら、経営状況・運営方針等を説明し、家族の要望を聞く機会を設けている。職員は利用者に、毎月初めに、したいこと等の希望調査を行い、職員は家族に、毎月のシーツ交換時、要望の有無を聞いている。	毎月シーツ交換の日があり家族が訪問してくれる。その時に職員は家族とよく話し合い、家族の意見要望の聴取に努めている。苦情の体制は整備されてパンフレットや重要事項説明書で周知されているが、特に苦情は寄せられていない。グループホーム便りが出来た時には送付し、必要な時には電話で利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ感染予防の観点から、NPO法人菜の花グループのGH管理者会議は開催出来なかったが、現場は朝夕のミーティングの充実を図っていて、現場の意見や提案の内、取り入れる必要のあるものは、運営に反映させている。	管理者は職員と同じシフト勤務で働いており、職員の意見や提案は会議や申し送り、業務の中で聴取している。職員の意見や提案で必要なものは管理者が法人代表者へと電話で伝えたり代表者が来訪した時に直接職員が話すこともある。代表者は運営推進会議等で月に一度は施設を訪問して、職員や利用者と交流している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準は高く、代表者は残業しない仕事のやり方を強く指導し、定時帰宅を求めている、当GHは、ほぼ出来ている。又、代表者は本人の努力に対して正しく評価を行い、素早く賃上げを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GHの業務は多岐に亘り、1人の職員が、介護・栄養士・看護師・事務員・相談員・清掃員等を兼務する。このような多岐の業務をこなすことは、職員のストレスを生む。本年度、主に夜勤を担当する職員を1人採用した。上手に育てたいと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の観点から、代表者は他GHの経営者等と電話での情報交換はしたが、コロナ禍で、職員間の相互訪問等は出来なかった。コロナが静まれば、法人系列のGH職員交流をしたい。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は全職員1人2声運動を実施する等して、利用者が不安に思っていることや、困っていること等に耳を傾け、信頼関係作りに最大限努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居後数日間に渡り、利用者の様子を電話で知らせたり、入居者特集号を郵送したりして不安感解消に努め、利用者・家族双方が、安心出来る関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	この問いはGHの理想の姿であるが、「他のサービス利用も含めた対応」まではしていない。ただGHよりも療養型が相応しいケースや、在宅のままの方が相応しいと判断した時は、そのようにアドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	漬け物・梅干し・らっきょう漬け・水ブキ・かぶら寿し・野菜作り等は、職員よりも利用者の方が数段ベテランのことが多く、調理や農作業はむしろ利用者に指導を仰いでいる。そして、ギブ&テイクの良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染予防の観点から、シーツ交換の是非を検討したが、毎月、家族に来所を求め、シーツ交換を継続した。そして、利用者の精神的安定の為に、面会禁止を極力避けた。コロナリスクと利用者の笑顔の間で、代表者と管理者は悩んだ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防の観点から、家族の面会が手一杯であり、利用者の馴染みの友人を招き入れるような状況ではなかった。	面会は子、孫、兄弟等家族限定で感染対策をとってもらい行っている。少しでも外出できるように、人込みの多い所を避けて散歩やドライブを楽しんでいる。能登島や七尾美術館、コスモスを見に、利用者の家を見にも出かけている。家族と一緒に受診に出かけることもある。今後はもっと頻繁に出かけることができるように考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者1人ひとりの生活歴や性格を把握し、得意なことを活かしながら、利用者同士が共に支え合い、関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「退居者特集号」を作り家族に送付し、転出先の施設等へ、管理者が安否確認の電話をしている。又、長年GHIに在籍され、その後、転出先の施設で死亡されたような場合は、法人からお悔やみのお花等も送っている。十分過ぎる程のフォローをしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、本人の希望をアンケートしながら、利用者の意向の把握に全力で取り組んでいる。月末には「実行出来たか？」のチェックも行っている。自宅への外出願望が強い利用者さんを積極的に連れ出ししたりもしている。	家族情報を参考にしたり、入居後の本人との会話の中からひとり一人の思いをつかむように努めている。常に一緒にいるので何となくわかるような気はするが、表情や、行動、しぐさ等に注意して今何をしたいのか判断している。毎月1日に本人から行きたいところや食べたいものの希望を聴取しており、それに沿ったケアを提供するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の入居前の生活をケアプランに表記し、全職員が把握している。そして、無理に過去の生活歴を聞こうとせず、現在の姿をありのまま、受け止めようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、1人ひとりの一日のスケジュール、心身状態、有する力の把握に努めている。朝夕の申し送り時に、注意すべきことがあった時は、必ず伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望を伺い、職員で話し合っ、ケアプランを立案している。また毎月ケアの目標を定め、月末には担当職員でモニタリングを行い、翌月に反映させているが、来年度からは2ヶ月に一度のモニタリングで良いように思う。	担当職員と管理者がアセスメントを行い原案作成し、ミーティング時にサービス担当者会議を開催している。モニタリングは毎月行い、利用者と一緒に月の課題を設定している。大きな変化がなくても12か月ごとに計画は更新している。記録は個人日報、全体日報、利用者の健康状態(バイタル、排泄等)、往診記録等がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日報を見直し、より健康管理がスムーズに出来るよう「健康管理表」を作成している。そして、表に基づき、日々の健康状態を詳しく確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情に応じて医療機関の受診代行、シーツ交換時の洗濯代行、外食同伴等の柔軟なサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの状況を見定め、外に出掛けるように努めた。人混みを避けて、空いている時間帯に地元農協や中島ストアーに出掛けた。春先には5類に移行するので、穏やかな暮らしを取り戻したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年も又、1年間に1度、家族に主治医の往診に立ち会って頂き、診療内容について、主治医から説明を受けて頂いた。来年度は、R4年の新入居の1名を中心に、薬剤師との面談も予定している。	2つの医療機関があり、月に一度の先生と、月に2度の先生が訪問される。そして、24時間オンコール体制をとっている。現場職員が、入居者の健康に大きな問題があると判断した時は、まずは管理者や代表者に電話相談し、法人内で意見を集約し、管理者が主治医に電話で相談し、管理者が先生の指示や内容を受け、現場職員に指示を出している。そして歯科医師は年に一度検診に訪れ、治療が必要な時は、家族さんや職員同伴での受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今までの看護師が年度半ばに退職し、新たな看護師を採用した。来年度は管理者交代が予想されるので、新たな看護師が中心になり、常勤職員が均等に往診対応が出来る体制を構築したい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護記録を医療機関に送付している。又、入院中は家族と連絡を取り合い、利用者の状態を伺ったり、医療機関の相談員や当GH主治医と連絡を取り合い、早期退院に努めるマニュアルはあるが、該当者がいなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで何例かの看取りの経験はあるが、本年度は該当者がいなかった。今までの看取りから、職員は多くのことを学んだ。そして学んだことを、自分の人生に取り入れたいと願っている。	利用者・家族の希望があれば最後までここで生活してもらうことは可能である。ただ、グループホームであるので常時の医療管理が必要であったり、延命治療を希望する場合には入院などの対応となる。食事は刻み食、粥食等基本柔らかなものを提供しているが口から食べる事が出来る事が一つの目安となっている。今年度は該当事例はなかったが過去には看取りの経験を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は繰り返し、緊急マニュアルを基に訓練を行っていて、又、救急救命訓練を受講済だが、非常時、職員がマニュアルを基に、咄嗟の判断を加えて動けるか？ と言うと、難しい。介護職員の欠点は、総合的判断力の欠如である。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	当GHIには詳細なマニュアルがあるが、全職員の頭にしっかり入っているかどうか？ 時間を見つけて、確認したいと思う。一般的に介護職員は、マニュアル通りではない臨機応変な対応は、不得手と思う。	「令和4年度 GH菜の花・七尾 緊急時等マニュアルファイル(リスクマネジメント)」が作成されている。「救急車対応マニュアル」、「誤飲・窒息・のど詰まり、異食、低血糖対応」、「無断外出マニュアル」、「感染症予防マニュアル(新型コロナを含む)」など事故の種類別に対応が記載されている。マニュアルの周知のための取り組みとして、マニュアルの項目別に勉強会の予定が示された「緊急時等マニュアルチェックリスト」に沿って勉強会を行い、職員へ周知している。マニュアルの見直しは、法人本部で行っている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関との連携は十分にあるが、連携施設の特養とは、日常の実質的な交流がない。これは非常時を想定したバックアップと考えられる。非常時にこの制度が運用出来るのか？ 疑問もあるが、連携施設の理事長と当GH代表者は親しいので、非常時に機能すると思う。	協力医療機関は、利用者7人の主治医である円山病院と、利用者2人の主治医である北村病院である。2つの医療機関ともに往診してくれ、緊急時の対応など24時間連絡が取れる。また、インフルエンザ予防接種、コロナワクチン接種、他科受診のための紹介状の作成などの支援体制がある。この他に、歯科も1年に1回定期検診に来てくれる。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	万が一の時は一刻も早く、近隣職員の応援が得られるよう、職員には常に携帯電話を持つようお願いしている。	1ユニットなので17時半から翌朝8時半までが、一人体制である。一人体制の時間帯に利用者に状態の変化があった場合、理事長に連絡し指示を受けている。救急車を呼んだ場合は、理事長は管理者へ連絡し、管理者は家族へ連絡し病院に向かっている。夜勤者は利用者の情報が記載されている「救急シート」を、救急隊にすぐ渡せるように用意している。令和4年度は、夜間帯に救急車を呼んだことはなかった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	GH内の出火場所を、離れた2箇所の場所に想定し、火災訓練マニュアルを根本的に見直したり、避難ルートを変更したりした。職員は頭で分かっているが、時間が追われて、これと言った再訓練は出来なかった。	防災訓練は、令和4年6月にホーム単独で、夜間想定の実施されている。また、9月には消防署立ち会いで、夜間想定の実施している。訓練前には「避難訓練計画書」を作成し、職員に訓練内容を周知してから訓練を実施している。訓練後には、「避難訓練報告書」を作成し、職員へ回覧し、職員の防災意識の向上に取り組んでいる。この他、運営推進会議では、水害の避難場所の確認を行っている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	非常時にはボタン1つで、代表者・管理者・法人内関連GHに携帯電話がつながるようにセットされている。3GHの管理者は、災害等の緊急時に備えて、3GHに勤務する全職員連絡先を把握している。	「火災発生時マニュアル」、「水害・地震・津波等の災害時マニュアル」、「非常災害時備品一覧」などのマニュアルが作成されている。また、緊急時等の連絡は、ホームの携帯電話から法人代表者などにボタン1つでつながるなど体制を整えている。備蓄は、食料、水、医薬品、携帯用ガスコンロとガスボンベ、カイロ、ラジオ、石油ストーブ、懐中電灯などが職員室に保管されている。備蓄リストは、マニュアルの中及び備蓄品と一緒に置いてある。	
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員チェックリスト(入居者対応・言葉遣い)で、職員自身が自分の心に問いかけ、利用者の人格やプライバシー尊重に十分な配慮をしている。	献立や外出先のリクエストなど、自分で選んで自分で決めてもらえるよう支援している。家事の手伝いも、得意なことをお願いしている。本人の生活のペースを尊重し、本人の希望を最大限取り入れるよう努めている。また、トイレの介助では、カーテンを閉め、居室に入る時には前もって声かけするか必ずノックをする。そして、居室内の物を動かす時には、本人に立ち会ってもらっている。このようなことが出来ているかをチェックするため、「職員自己チェックリスト」を年2回実施し、自分自身の行動を振り返っている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立やお茶の種類のリクエストを求めたり、レクリエーションの選択をご本人に委ねたり、家事も利用者の得意なことをお願いしたり、外出先もご本人の希望を最大限取り入れたりの配慮をしている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間のチームワークが良いので、GH内の雰囲気明るくて、無駄な動きが少ない。よって職員間に時間的な余裕があり、利用者の希望に沿った支援や、利用者の生活ペースの尊重が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	高齢者施設だから～を止めて、身だしなみには最大限の配慮をしている。風呂上がりにカラー・くるくるドライヤーを使い、化粧・マニキュア・ハンドマッサージ等を楽しんだりしている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はかなり豪華な食材を使い、献立も家庭料理そのもの。利用者は調理から後片付けまで、職員と一体で行っている。買い物は、コロナ禍で利用者同伴は不可能だったが、旬の食材にこだわり、季節感のある七尾らしい献立に努めている。	食材は、職員が近くのスーパーなどに買いに出かけている。献立は旬の物を取り入れ、利用者が食べたいというものを提供している。調理や食事の準備・後片付けは、できることを手伝ってもらっており、野菜を切ってくれる方もいる。食事は、四角のテーブルに4人座り食べている。その時に職員も一緒に食事をしている。食事中は、どちらかというと黙々と食べることに集中している。テレビも消し、食べることに集中してもらっている。その他、月に2回行事食や誕生日会などがあり、少しだけ豪華な食事を楽しんでいる。また、週1回程度、水ようかん、茶巾しぼり、蒸りんごなど手作りおやつで楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加対策として、低脂肪・高たんぱくのヘルシーメニューを心掛けている。降圧剤服用者が多いので、気持ち減塩している。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に1回の歯科検診の実施した。コロナ感染予防の為に、毎食後の口腔ケアの徹底と舌ブラシ使用、就寝前の入れ歯洗浄の徹底を図った。全職員は1人1人の歯磨きチェックや義歯の状態等を、把握している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者と職員が少人数であるGHの利点を生かし、職員は利用者の排泄パターンをほぼ把握している。よって、利用者の排泄失敗事例は非常に少ない。	利用者全員を対象に、排泄チェック表を作成している。排泄チェック表を活用し、健康状態の把握とタイミング良い声かけで失敗を防ぎ、トイレで排泄できるよう支援している。また、夜間の睡眠を確保するため、その人に合ったパッドやリハビリパンツを使うよう配慮している。そして、便秘にならないよう食事に配慮し、運動にも取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維を多く取り入れ、歩行運動を継続し、腹部のマッサージを行い、牛乳・ヨーグルト・ヤクルト、バナナ・さつまいも等を、積極的に食している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯に縛りはあるが、職員の負担と業務の優先順位等を総合的に判断し、入浴回数が多ければ良いという考えを捨てた。又、色々な香りの入浴剤や、菖蒲湯・柚子湯等を楽しんでいる。	入浴日は、月・木の週2回である。入浴を拒否する方がいるが、どうにか週2回は入浴してもらっている。入浴を拒否する場合は、時間をおいて声かけしたり、声をかける職員を変えたり、声かけを工夫するよう努めている。また、入浴後ヤクルトなどの清涼飲料水を楽しみにしている方や、くるくるドライヤーを楽しみにしている方、また3種類のシャンプーや自分のシャンプーを使う方もおられ、入浴の楽しみを作って風呂に誘ったりもしている。あるいは、入浴剤や菖蒲湯、柚子湯など変わり湯もしている。入浴は、健康上問題がなければ、本人の湯加減で、満足するまで入浴してもらっている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、不眠がちの利用者には日中に身体を動かし、趣味の時間を楽しめるよう支援したり、眠れない利用者には夜勤職員は、温かい飲み物や軽食を提供し、入眠に繋げている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月、薬剤チェックリストで、現場・代表者共、不要な薬剤のチェックを行っている。又、請求書発送時、家族に薬剤情報送付を継続している。日本調剤小丸山薬局は非常に優秀な薬局で、職員は、毎月の居宅療養管理指導から学ぶことが多い。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの為に人込みを避けて、ドライブを繰り返した。楽しみごとのリハビリ(絵手紙・読書・パズル・大人の塗絵・フラワー教室・お経・踊り・ラジオ体操、家庭菜園、朗読教室等)を多く設定し、一人ひとりに合った活動参加を促している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に基づき、天候と体調に相談し、散歩・お参り・ショッピング・ドライブ等に出かけているが、現在の人員配置基準では、こら辺が限界。	気候の良い時期は、近隣の散歩やドライブに出かけている。ドライブは、近くの大きな公園や神社など、あるいは海沿いや能登島まで行ったり、桜などの花を見に出かけたり、紅葉狩りに出かけたリ、利用者の自宅付近に行ったりしている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本年度は職員間で利用者のお金の所持について、徹底的に話し合った結果、利用者7人が金銭管理をされている。金銭出納帳は1か月に1度、家族さんが中心となり、担当者を交え、残額を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を楽しみに待つ利用者や、帰宅願望が強い時に、家族との電話で気持ちが落ち着かれる利用者もいる。施設入所のご主人と、リモートでの面会を楽しみにされている方もいる。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は障子を使用し、居間・居室窓からは七尾の山並みや矢田の在所が眺められ、心が和む。田んぼにはカモやしらすぎやキジがエサを求めて飛来し、利用者さんは楽しみにされている。	日中は、ほとんどの方がリビングで過ごしている。そのため、毎朝掃除機をかけ、除菌シートで拭き掃除を1日2回行い、清潔を保持している。また、冬は加湿器を置き、湿度計で確認し、換気は1日4回程度行っている。あるいは夏場になると、エアコンの風が冷たいと訴える方もいる。そのよう方には衣服で調節したり、席替えすることもある。この他、リビングには夏にちょうちん、クリスマスにツリー、正月に正月飾りなど、あるいは季節の花を飾り季節を感じている。また、庭には季節の草花がたくさん栽培されており、リビングから外を眺めると、季節を感じることができる。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居間の所々にソファやベンチを配置し、気の合った利用者同士で思い思いに過ごされている。相性の合わない利用者さん同士もいるが、居間が広いので、逃げ場を作ることが出来る。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出の品・馴染みの品を、家族に持参して頂いているが、これ以上の協力は難しいので、最近では自室に小さな観葉植物やお花を置いたり、絵手紙や俳句等を飾り、花の季節に本人の写真を撮り、額装して飾っている。	入居する際に、家族の写真、テレビ、茶道の茶わんなど馴染みの物を持ち込んでいる。また、居室には、日中作った自分の作品やホームで撮った写真などが掲示されている。居室は毎朝掃除機をかけ、換気も行っている。天気の良い日には窓は開けている。月1回のシーツ交換前には、居室の隅々まで掃除するようにしている。また、転倒リスクのある方の部屋には荷物の配置を工夫する等動線を確保し、転倒防止に配慮している。そして、居室を掃除する際は、本人の物を勝手に動かさない、居室に入る際は前もって了解を取るなど、プライベート空間であることに配慮し、本人が好むように使っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が純和風となっており、畳を使用することで気持ちが和らぐ。トイレは「便所」と分かり易く表示している。全館バリアフリーで、また足腰の悪い人に配慮して柔らかいソファを廃棄し、硬いクッションのベンチに取り換えた。		